

か第0306065号
平成18年5月30日

かつらぎ町立幼稚園及び学校適正配置
・整備計画検討委員会会長 様

かつらぎ町教育委員会
教育長 内田勝巳

幼稚園及び学校の適正配置・整備計画のあり方について(諮問)

近年わが国では少子化が急激に進む中、本町に於いても、その傾向が如実に現れています。平成18年4月末現在、町立幼稚園児(6園、106名)は平成10年度(6園、221名)と比較すると115名の減、小学校児童数(11校、940名)は339名の減となっています。そして、今後もこの傾向が進んでいくものと予想されます。

一方、各幼稚園の主たる構造物は昭和30年代から40年代に建築されたものであり、小中学校に於いては順次木造校舎を鉄筋コンクリート校舎に改築しているものの、特に昭和10年に建築された浜田小学校、昭和30年代から40年代にかけて建築された笠田中学校、笠田小学校、妙寺小学校、四郷小学校の各学校は老朽化が著しく、今後、耐震性確保の点から早急な大規模改修並びに改築を余儀なくされています。

このように、地震発生時の児童生徒の安全確保や望ましい学校規模並びに本町の財政事情等を思う時、学校の数や配置等を現状のままにしておいていいのかどうか、いよいよ課題意識を深めざるを得ません。

かつらぎ町教育委員会は、各幼稚園及び学校に於ける今後の児童生徒数の動向や通学事情等を踏まえながら、幼稚園及び学校の適正配置・整備計画のあり方について検討を加える必要に迫られています。

そこで、かつらぎ町の将来像を見据えながら大所高所の観点から、かつらぎ町における今後の幼稚園及び学校の適正配置・整備計画のあり方についてご検討いただきたく、ここに諮問いたします。

